



1 教職員による自己評価

全カテゴリの平均は、3.62(前年度比+0.12)であり、全体的に前年度の評価を少し上回る結果となった。前年度の評価を上回るカテゴリは、「Ⅰ学校経営」「Ⅱ教育課程・教育活動」「Ⅲ管理財政」「Ⅵ施設設備」「Ⅶ教職員の育成」「Ⅷ広報」「Ⅸ地域との連携」であった。

一方、前年度の評価を下回ったカテゴリは、「Ⅲ入学・卒業対策」「Ⅳ学生生活支援」であり、特に「Ⅲ入学・卒業対策」において、教職員間で、「より多くの応募者(受験生)の確保」に係る共通認識を高める必要が認められた。

【Ⅰ学校経営】

評価結果は3.5であった。前年度と比べて概ね大きな変動はなかった。教職員は、それぞれ担当部門の目標に沿い、個別目標を設定し業務を適切に遂行した。また、教務会議では、教授活動が学生育成に確実に反映されるよう繰り返し検討を重ねるなど効果的な会議を実践した。一方、「各業務担当の目標に対する評価結果を全体で共有している」ことについて、3.4と低い評価であった。今後、各業務担当の目標に対する評価結果については、教職員会議等において周知していくほか、課題や改善策について繰り返し検討を行うなど、今後のより良い学校経営につなげていく。

【Ⅱ教育課程・教育活動】

評価結果は3.6であった。「教育理念、目標が一貫性のある内容である」についてが「4.2」と高評価であった一方、「シラバス(授業計画)が科目間で調整され学生に活かされていること」等についてが「3.4」、「授業評価が教育内容や方法に反映されていること」についてが「3.2」と低評価であった。これら低評価に対する対策として、今後、「シラバス(授業計画)における講義内容と担当講師の専門性や指導方法の教育目標の達成度」や「授業評価の教育指導内容等への反映状況」について、これまで以上に教職員が改善に向けた具体的な意見交換や情報共有を行い、社会の変化に対応した教育の質向上に活かしていく必要がある。

【Ⅲ入学・卒業対策】

評価結果は、3.6であった。今年度の募集状況について、受験者が大幅に減少する結果となった。今後は受験生確保のため、全教職員が受験勧奨の共通認識をより一層高め、受験生確保に向けた積極的な情報発信を推進していく必要がある。一方、国家試験について、第115回看護師国家試験の合格率は92.6%であり、第114回看護師国家試験の合格率を3.1%上回った。国家試験対策として、今年度から国家試験担当の教員を3名から4名に増員し、日々学生に繰り返し指導教養したほか、1年生から国家試験対策時間を増加するなど学生が国家試験に集中して取り組む国家試験体制とした。また、卒業生に対する支援については、卒業後の継続した個別相談や7月のホームカミングディなどを通して就業支援を行ってきたところ、今後は、これまでの就業支援に加え東京警察病院と連携した就業支援も行っていく。

【Ⅳ学生生活への支援】

評価結果は、3.7であった。学生相談体制について、教職員から学生に対する能動的な行動が、「やや不十分」であった。今後、より充実した学生相談体制を構築し学生を支援していくに当たり、教職員が学生の日々の行動や健康状態の変化に強い関心を持ち必要な支援につなげていく必要がある。今後は、学生が安心して学習できる環境を整えていくとともに、学生が心身の健康状態を維持し、よりよい学習成果を得られるよう支援を行っていく。

【Ⅴ管理財政】

評価結果は、3.8であった。予算計画、年間事業計画を策定し、これら計画に沿った適正な予算執行を推進した。また、非常時に備えた食料や飲料水等の備蓄品を計画的に整えたほか、社会福祉施設等と災害時における協定を結び共同訓練に参加したことが危機管理体制面で評価された。引き続き自然災害等の予期しない事態の発生時に対応できるよう計画的に備蓄品を蓄えるとともに、社会福祉施設等での共同訓練に参加していく。

【Ⅵ施設・設備】

評価結果は、4.3であった。教育目標の達成に必要な設備や教材の整備が進んでいることや学生が自由に利用できる休息・交流スペースが充実し、放課後も図書館、O A室等が自由に利用できるなど、学生が学習しやすい環境になっていることが高評価となった。今後も学生がより良い学校生活を送れるよう、教室、O A室をはじめ校舎内の冷暖房等の維持管理に努めていく。

【Ⅶ教職員の育成】

評価結果は、3.3と全体的に低かった。教員が参加した研修やセミナー結果について、教員間において情報共有されたこと、他の教員の授業を自由に参観し教員間で意見交換できる状況であったことなどが前年度より評価を上げたが、教員の研究活動や教授成果の外部公表については評価が低かった。今後、全体的に教職員の育成に係る評価を上げるため、継続して教員相互による授業参観を行い、教員間で自由に意見交換や情報共有できる職場環境を構築していくほか、教員の研究活動や授業成果の外部公表についても支援体制を強化するなど、幅広い教員の育成体制を構築していく。

【Ⅷ広報】

評価結果は、3.4であった。昨年より評価が0.2上がったが、ホームページの掲載内容について、更新頻度はそれほど高くなく、広報活動による受験者増につながらなかった。今後は更新頻度を高くし、受験生増につなげる広報活動を展開していく。

【区地域との連携】

評価結果は3.4であり、前年度より評価が0.4上がった。地域住民に対する学校施設の開放については、前年度同様の評価であったが、学生及び教員が地域の実習施設等で開催された行事やイベントに参加し地域との交流を深めたことが一定の成果に繋がった。今後も中野区で唯一の看護専門学校として、地元の方々との交流を大切にし、地域や社会に貢献した活動を推進していきたい。

2 学校関係者評価

4名の学校関係者評価委員による評価は以下のとおりである。

教職員による自己評価が的確にデータ化・分析され、それを踏まえて適切に学校運営されていることは評価できる。今後は、教職員のワークライフバランスの実現度を確認する項目を入れることも必要ではないか。教職員が心身共に健康であることが、学生に対する健全な学校運営や教育活動につながる。

新入学生の入学対策については、18歳人口の減少が学生確保に多大な影響を及ぼしている。現時点での入学対策として、オープンキャンパスには新たに夜間開催を加え、年間のオープンキャンパス設定日以外でも、要望に対し授業を参観してもらうなどの工夫をしていることは分かる。しかし、今後は、これまで着手していないネット等のツールを用いた方法やこれまで以上の地域交流を検討することが求められる。